

学習や生活における成長のようす（中学校）

「どうしてうちの子は、みんなと同じようにできないの？」
 …子どもの発達で心配なことはありませんか？
 ヒントはこのシートの最終ページ（中-3③）にあります。

【おおかたできる：○ 時々できる・不明：△】を記入してください。

項目	内容	中1	中2	中3	
		年 月 日	年 月 日	年 月 日	
学習面	聞くこと	聞き間違いや、聞きもらしをせずに、話を聞くことができる			
		指示をきちんと理解することができる			
		話し合いをすることができる			
	話すこと	適切な速さで話すことができる			
		内容が豊富な話をするすることができる			
		きちんと筋道が通った話をするすることができる			
	読むこと	文字の読み違いや、勝手読みをせずに読むことができる			
		語句や行を抜かさずにスムーズに読むことができる			
		文章の要点を読み取ることができる			
	書くこと	読みやすい字を書いたり、正しい筆順で書いたりすることができる			
		“へん”と“つくり”を入れ替えるなどの細かい字や句読点の間違いをせずに書くことができる			
		いろいろなパターンで文章を書くことができる			
	計算	簡単な暗算ができる			
		時間をかけずに計算することができる			
		いくつかの手続きが必要な問題も解くことができる			
推論	図形をかくことや数量間の関係を理解することができる				
	見通しを持って課題を解決することができる				
	早合点や飛躍した考えをせずに問題を解くことができる				
行動面	不注意	不注意による間違いがほとんどない			
		気が散ることなく集中することができる			
		きちんと話を聞くことができる			
		指示に従うことができる			
		持ち物の整理整頓ができています			
		物をなくしたり忘れたりすることがあまりない			
	多動性・衝動性	授業中に席を離れたり、そわそわしたりすることはない			
		何かに駆り立てられるように活動することはない			
		きちんとしていなければならない時に、過度に興奮せずに落ち着いている			
		過度にしゃべることは少ない			
		給食やトイレなどの順番を待つことができる			
		質問に出し抜けに答えたり、質問に答える人の邪魔をしたりすることはない			

項目	内容	中1	中2	中3	
		年 月 日	年 月 日	年 月 日	
対人関係面	人との関わり	身振りなどの非言語的なコミュニケーションが得意である			
		人間関係を築くことができ、多くの友達と仲良くすることができる			
		多人数で遊ぶことが多い			
		友達と協力して行動することができる			
		相手の感情や立場を理解して話すことができる			
		周りが困惑するようなことは、遠慮して言わないようにすることができる			
		話し言葉の遅れはみられない			
		冗談や嫌みを理解し、受け流すことができる			
		会話が一方通行ではなく、抑揚のある話し方をすることができる			
		自分でことばを勝手に組み合わせたりせず、周囲に理解できるように使うことができる			
	独り言を言ったり、場面に関係なく声を出したりすることはあまりない				
	興味関心・こだわり	他の生徒は興味を示さないような興味があり、自分だけの知識世界がある			
		空想の世界の遊びと現実との切り替えをきちんとすることができる			
		知識が豊富でその意味をきちんと理解している			
		とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある			
		特定のことに強くこだわりがあっても、日常活動に支障をきたすことはない			
		自分なりの独特な日課や手順があっても、変更や変化に柔軟に対応することができる			
	その他	特定のものへの強いこだわりや、限定された興味だけに集中することはない			
		大人びていたり、ませていたりする			
		非難されると過剰に反応したりせず、自分の非を認めることができる			
友達とのトラブルはあまりない					
反復的な行動をしたり、独特な姿勢をすることは少ない					
	動作やジェスチャーをスムーズに行うことができる				
特記事項					
長所					
ついでに 努力しよう					

～ こどもの成長発達は、^{ちが}い^こせ^いいや個性があります ～

学習やコミュニケーションなど学校生活で困り感をもったとき、10人子どもがいたら10人全員に^{ちが}違う理由と原因があります。

例えば、「国語が苦手」というお子さんの場合、【知っている言葉の数が少ないので理解が^{むずか}難しい／目で文を追うのが難しい／文を読めても意味として内容が頭に入っていない／漢字がどんなパーツで構成されているか把握できない／先生の話聞いていても一部分しか覚えていなくて授業の流れについていけない／目に見えないこと（自分や物語の登場人物の気持ち）を想像して書くことが難しい】などたくさんの原因が考えられます。

一人ひとり違う「なぜわからないか」の原因をみつけて学校と家庭がともに理解すること、またそれに対応した「わかりやすい方法」を見つけてお子さんにあった学習の仕方ですべてサポートしていくことが大切です。

このチェックリストは「できる／できない」を^{はん}だ^ん判断するのではなく、学習やコミュニケーションの困り感がどこから来ているかを見つける手がかりとして使います。

一人ひとりへの理解が深まることで、子ども達が学校生活をもっと「^らく」に「^じし^ん自信をもって」過ごすことができます。